

17 回生 小部亮介さん



学生時代に芽生えた 文章を書くことへの楽しさ

中学入学と同時に始めたテニスが転機となりました。高校、大学と競技を続けていき、大学では「全日本学生テニス連盟」に所属しました。そこで、全国大会を運営する大会ディレクターという役職を任されました。その大会運営中「大会で頑張る選手たちの様子をどうにか伝えられないだろうか」と思い立ち、SNSを活用して、試合の戦評などを書くようになりました。そんなに多くの人の目に触れることはありませんでしたが、「文章を見たよ」などと声を掛けてもらうことができ、喜びを感じることができました。その時に芽生えた「スポーツの素晴らしさを何とか伝えていきたい」という思いから、文章を書く仕事を目指す決意をしました。

“就職浪人、も諦めず

文章を書く仕事に就きたいと考え、新卒で新聞社やスポーツ雑誌などを目指して就職活動を進めていきましたが、就職試験を受けたすべての会社に落ちました。それでも、文章を書きたいという思いを諦めきれずに、2年間就職浪人して、ようやく佐賀新聞社に入社が決まりました。初めの半年は警察担当でしたが、すぐに念願のスポーツ担当に。2年目には、甲子園初出場の有田工業高校に密着し、エースの古川侑利投手がプロ野球・東北楽天へ入団した時も立ち会いました。2年目の秋から約3年半はサガン鳥栖の番記者として全国各地を飛び回って試合取材に奔走。プロ選手を取材することの厳しさを痛感するとともに、社内で一人しかできない取材に携わるという貴重な経験を積みました。仕事は大変ですが「記事よかったね」という言葉ですべての疲れが吹き飛びます。

ありのままを**県民**に届ける。

地域に根ざした記者魂！

- 2000年 4月 弘学館中学校入学
- 2006年 3月 弘学館高等学校卒業
- 2006年 4月 立教大学経済学部入学
- 2010年 3月 立教大学経済学部卒業
- 2012年 4月 佐賀新聞社入社

(編集局報道部配属)

(2019年1月現在)



入社2年目に甲子園で取材した有田工業高校のメンバーや関係者。卒業した後も、食事に行くなど交流があることも記者の魅力。

小部亮介さんのとある一日

9:30 出勤

10:00 取材

11:00 原稿執筆・出稿

13:00 取材

14:00 原稿執筆・出稿

17:00 ゲラ確認

19:00 社内打ち合わせ

20:00 帰宅

後輩へのメッセージ 夢を思い描き続けることは大事なことです。それは、中学、高校時代に限らず、大学に進んでも社会人になってからも変わりません。私は大学時代、どんな職に就きたいのかと悩んでいたときに一人の先輩から声を掛けてもらいました。「一つの木から多くの枝を生やして葉を広げよう」。例えば、スポーツに関連した職業という「木」から報道や商品販売などの「枝」、新聞社やテレビ局、メーカー各社などの「葉」へと広げていくということです。一つの何かを追いかけることも大事ですが、幅広い可能性を持つことでいろいろな未来が見えてくるかもしれません。